

# ヤクザと「リゾーム」の権力論

九州大学 大山智徳

## 1 目的

この報告の目的は、私の研究対象である身近にいるヤクザの断片的な言葉とドゥルーズ＝ガタリ（以下、「DG」と略記する）の著書『千のプラトー』の「序 リゾーム」を権力論として交差させることでより自由な権力論を構築することにある。それぞれのヤクザの言葉という断片からの想像力を駆使することとリゾームという抽象度の高い概念を記号論で3つに形式化し、それぞれのメタ言語を考え9つの権力関係を演繹することで権力概念に新たな公理を付け加えたい。

## 2 方法

そこで、データとしてヤクザの断片的な言葉を提示する。したがってヤクザについての質的データとして扱うこととする（具体例は当日、20例に絞って紹介する）。そこから想像力により一般的なヤクザの表象に修正を迫り、生きているヤクザの息吹を伝える。

一方、DGの「リゾーム」概念を3つの記号形式の1つの記号形式と見なしながらさらにそのメタ言語を考え、9つの記号形式を提示する。3つの記号形式とはデノテーションレベルでは一方向、双方向、離接の記号関係である。これをメタ言語に次元上げるとメタ言語3×デノテーション3で9つの記号形式が得られる。

20例のデータと9つの記号形式をつき合わせながら権力論の新しい社会学的可能性を含んだ公理にできるか考察する。（なお、デノテーション、メタ言語については当日A4判1枚に<図>としてまとめたプリントアウトし、ポスターセッション会場にて希望者に配布する。）

## 3 結果

記号論を通してヤクザの言葉を分析するとヤクザの言葉からは一方向の権力関係があるようであるが実は離接の権力（記号）関係であることがわかった。彼らは自分たちを一方向の権力関係への強い忠実な子分であるかのように語るが辞めたあとは「任侠道を追求するためにヤクザになった」といいつつ「〇〇組には任侠道はなかった」と簡単に自己正当化する論理がみてとれる。こうした例はどこの組織でもあり、「反逆の論理」として語り継がれてきたがこの論理に記号形式を与えるのに効率的なのがDGの「リゾーム」概念で展開される離接記号である。

たとえば橋爪[1985]がヴィトゲンシュタインの言語ゲームを言語ゲーム「論」として社会学的に有効な理論として再構築した。これは言語ゲームそのものは離接記号であるから双方向関係は必要としないが「論」にするためにはメタ言語レベルにおいて双方向の記号形式が必要になったとより効率的に理解できる。

## 4 結論

以上から、ヤクザの言葉とDGの「リゾーム」から記号論を通して抽出した離接記号がより自由な権力論の公理となりうることが示せた。

## 文献

- 内田隆三, 1979, 「社会学史入門」 pp. 176-197 『ソシオロゴス No. 3』 ソシオロゴス編集委員会。  
ドゥルーズ＝ガタリ (宇野邦一ほか訳), 1980=1994, 『千のプラトー』 河出書房新社。  
橋爪大三郎, 1985, 『言語ゲームと社会理論』 勁草書房。  
亘明志, 2004, 『記号論と社会学』 ハーベスト社。